FCP 食の安全・信頼に関する新たな知見の蓄積勉強会

第２回　ICT 技術による食の安全と信頼の向上　議事概要

日時：平成 29 年 7 月 21 日（金）　13:30～17:30
場所：中央合同庁舎４号館 12 階　第 1219-1221 会議室
参加者：36 事業者・団体　計 46 名
議事次第：

１．開会挨拶
２．最新 ICT 技術による食のバリューチェーン
　株式会社 TrexEdge　池田博樹様
３．ICT 等技術の活用による課題解決についてのディスカッション
　（１）ICT 等の事業者様（３社様）からの提案
　　株式会社富士通エフサス　泉　博文様
　　ソフトバンク株式会社　山口典男様
　　横河ソリューションサービス株式会社　黒沢　潤様
　（２）グループディスカッション
　　論点説明・ディスカッション・発表
４．閉会挨拶
５．事務局連絡

議事概要：

第２回目の食の安全・信頼に関する新たな知見の蓄積勉強会では、「ICT 技術による食の安全と信頼の向上」をテーマに、以下の講師より講演していただいた。

・最新 ICT 技術による食のバリューチェーン
　株式会社 TrexEdge　池田博樹様
・データを活用した食の安心安全への課題取り組みについて（事例紹介）
　株式会社富士通エフサス　泉　博文様
・食の安全を含めた農業分野における IoT や AI の活用事例とその課題
　ソフトバンク株式会社　山口典男様
・ICT 等技術の活用による食品製造工場の課題解決について
　横河ソリューションサービス株式会社　黒沢　潤様

講演の後、食品業界における ICT 等の技術を使った課題解決について、「１．ICT 技術による食の安全・信頼のリスク管理」「２．今後望まれる食の安全・信頼に関する ICT 技術」という論点で参加者に議論していただき、グループ毎に発表を行った。

「１．ICT 技術による食の安全・信頼のリスク管理」について、次のような意見があった。

・ICT 技術は、原料管理、誤投入防止、異物混入防止、トレーサビリティの向上、犯罪の防止等、食の安全・信頼を向上させることに役立つ。

・トレーサビリティへの意識が高まる中、ICT 技術は、農場から消費者までのフードチェーン全体でのトレースを取ることに役立つ。

・ICT 技術により、HACCP の自動化や、作業の省力化・効率化、在庫の適正化、食品ロスの削減等に役立つ。

・ICT 技術の浸透には、若い人が積極的に農業に従事するようになるという効果もあるのでは。

・導入のコストが課題。資本力の弱い事業者が淘汰されてしまう恐れがある。また、企業に合わせてオーダーメイドでつくるのでコストがかかる。安価に導入できるものになって欲しい。

・責任の所在という課題。AI や IoT を活用したシステムによりトラブルが起こったとき、責任の所在がどこにあるのか。また、コンピュータの判断の正当性について、誰が検証するのかということも課題。

・技術が発達しても、考える・カスタマイズするのは人であり、人と共存させていく必要がある。

・ICT によって技術向上したとしても、事業者は、衛生管理の理解や生産目標の明確化等、今までと同様に生産に必須な要件を理解していなければならない。

「２．今後望まれる食の安全・信頼に関する ICT 技術」について、次のような意見があった。

・法令が変わったとき、AI 等により食品表示を自動作成する技術。

・製造の現場で、人為的ミスをなくす技術。

・品質管理の仕事を標準化・継承することに活用できる技術。

・商品裏面のバーコード等に様々な情報を盛り込める技術。

・外国人労働者も増えており、日本語だけで仕事ができない環境が増える中、現場の支援に活用できる技術。

・農業分野において ICT 技術の活用が広がれば、品質向上・収量改善につながる。また、現在よりさらに簡素化されたウェアラブル端末が開発され、農業の現場での活用が広がれば、見える化が進み、消費者の信頼につながるのではないか。

・設備の IoT 化が進み、メンテナンスしやすくなると助かる。また、ディープラーニングにより機械動作の調整も自動化されれば助かる。

・一つの会社だけでなく、業界全体でデータの蓄積をすれば、今後より発展が見込まれる。

・ICT 技術は、人が気付かないところを指摘するものであって欲しい。

グループ毎の発表の後、講師の方々より次のようなコメントをいただいた。

（黒沢様）

・本日の皆さんのご意見を、今後の取組に活かしていきたい。

・ICT 技術を導入すると、人が技術に頼ってしまい、結果現場力が落ちてしまうという懸念があるが、それに対する取組も現在進めている。

・ICT 技術導入のコストに関して。今までの ICT 技術は大手向けのものが多かったが、食品製造業は中小が支えている業界であるので、そこにどうやって適応していくか、我々も常に考えている。本日の皆さんのご意見を聞いて、取り組みやすい価格で導入できる ICT 技術の必要性と、導入後の効果の出し方（投資回収できる仕組み）まで提示する必要性を感じた。

（池田様）

・ICT 技術を使っていただく方に、「ICT 技術とは何か」を理解してもらってから使っていただかなくてはいけない状態は、業界がお客様にしっかりと発信できていない、技術が完成していないということ。コンセントを挿すように、説明なしでも使える技術を開発することが、業界の使命である。

・ICT 技術導入のコストに関して。ICT 技術や半導体の今後のコストトレンドは大体予想できる。会社が導入したいと考える ICT 技術のコストレンジがあると思うが、そのコストレンジに合う３年前から導入すると、３年間でノウハウを習得でき、コストレンジに合ったときに他社に差をつけることができる場合が多い。業界全体で導入が始まったタイミングで使い始めると、大体３年遅れる。

（泉様）

・本日、皆さんからたくさんのご意見・アイディアをいただき、大変参考になった。

・HACCP のオペレーションの自動化に関して複数の班からご意見が出ていたが、我々も非常に関心がある。AI の画像解析の技術を使い、例えば、画像でよい事例・悪い事例を集めておき、施設にカメラをかざすと自動的に判定することが可能であると考えている。今後 HACCP が義務化されると、中小の方々も取り組む必要があり、各企業での人材の育成も重要になってくる。我々も、より多くのデータを集めて、技術の精度をさらに上げられるよう、取り組んでいく。

（山口様）

・将棋等、AI が人間を超える事例も出てきており、技術は急速に進歩している。このような時代に暮らせることは面白い。

・技術が進歩しても、人間が人間らしく幸せに生きることが一番大事であると思う。我々も、そう考えながら取り組んでいる。